

2024 年に登録された 有機茶園で使用できるチャドクガ防除薬剤について

茶業技術研究担当 ○宮田穂波、高橋 淳、石井竜也

1 ねらい

県内の有機茶園では、チャドクガの発生が目立ち、成幼虫の毒によって、作業者の皮膚がかぶれる等の被害が起きている。2023 年 4 月に「金鳥除虫菊乳剤 3」が登録されるまでは、チャドクガ防除として有機栽培で利用できる有機 JAS 適合資材が無く、チャドクガ対策は有機栽培において困難であった。

そこで、新たな有機 JAS 適合資材の追加登録を目的とし、2022 年 4 月より有機栽培で利用できる薬剤（3 剤）についてチャドクガ幼虫に対する防除効果を検証した。

なお本研究は生研支援センター「戦略的スマート農業技術等の開発・改良（JP1011397）」の支援を受けて行った。



図 1 チャドクガ老齢幼虫



図 2 試験の様子（ネット内に幼虫を放虫）

2 研究内容

（1）供試薬剤

2022 年：スピノエースフロアブル（4000 倍）、エスマルク DF（1000 倍）

2023 年：エスマルク DF（1000 倍）、バシレックス水和剤（1000 倍）

（2）試験手法

供試薬剤及び対照薬剤（フェニックスフロアブル 1000 倍）を散布した茶園にチャドクガ幼虫を放虫し、その後生存虫数を計測した。生存虫数より補正死亡率を算出し、薬剤の殺虫効果を検討した。

（3）試験結果

2022 年：薬剤散布 7 日後の補正死亡率は、スピノエースフロアブル散布区で 100%、エスマルク DF 散布区で 100%であった（図 3）。

2023 年：薬剤散布 10 日後の補正死亡率は、エスマルク DF 散布区で 75%、バシレックス水和剤散布区で 62.5%であった（図 4）。

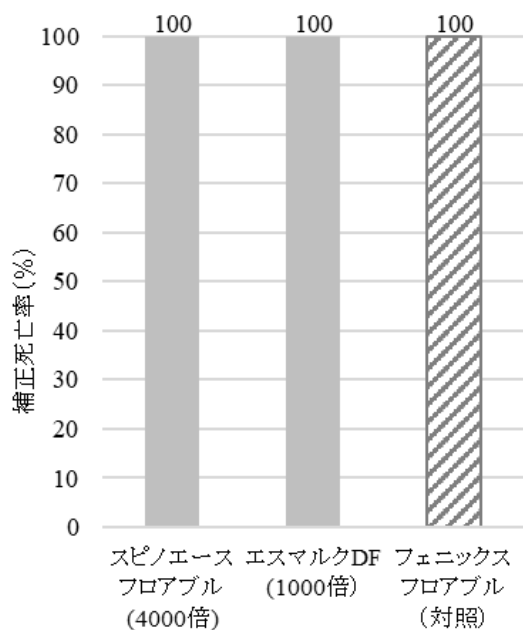


図3 2022年試験結果
(散布7日後の補正死亡率)

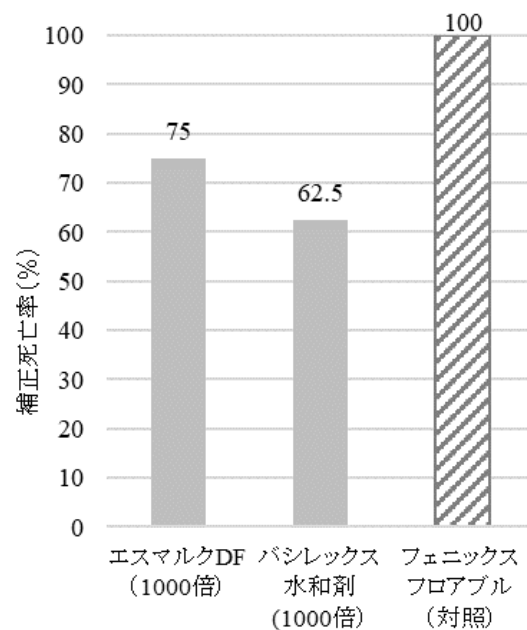


図4 2023年試験結果
(散布10日後の補正死亡率)

3 解明点および留意点

- (1) 本研究結果は有効な薬効試験の一例として扱われ、2023年に適用拡大申請、2024年に適用拡大となった。2025年1月現在、有機栽培でチャドクガに使用できる薬剤は、**4剤**となった(表1)。
- (2) チャドクガ幼虫は老齢幼虫になってから発生に気付くことが多く、幼虫の齢が進んでから農薬を散布した場合、薬効の低下が懸念される。茶園では裾部を中心によく観察し、早期発見・早期防除に努める必要がある。

表1 「茶・チャドクガ」で登録されている有機 JAS 適合資材

農薬の 名称	希釈倍率 (倍)	使用液量 (L/10a)	使用時期	本剤の 使用回数	IRAC コード※
金鳥除虫菊乳剤 3	500～ 1000	200～ 400	摘採 10 日前まで	3 回以内	3A
スピノエース フロアブル	2000～ 4000		摘採 7 日前まで	2 回以内	5
エスマルク DF	1000		発生初期 但し、摘採 7 日前まで	—	11A
バシレックス 水和剤	500～ 1000		発生初期 但し、摘採 7 日前まで	—	11A

2025 年 1 月 1 日

※IRAC コード: 殺虫剤の作用機構に基づき、数字または数字とアルファベットの組み合わせで分類したもの。

薬剤抵抗性害虫の発生を防ぐため、同じグループの剤を連続して使用することは避ける。